



MINI (51号)
1981年 6月10日発行 ¥100 千45

- 何でも言える ●何でも書けるミニ雑誌〈あごらミニ〉
- 小さな〈ひろば〉=AGORA・〈あごら〉
- あなたの声を待ってます。みんなでつくる〈あごら〉

映画のボーヴォワールは、学生時代をなつかしく思い出させてくれた。今思えば受験に向けた高校時代はひどいものだったと思う。歴史は年号と出来事の丸暗記、国語も文法や作品名、作者名を暗記するだけで、内容をじっくり味わったり、生き方を考えさせたりはしてくれなかった。だから当時の教師や受験のあり方をひどく恨めしく思う。そして教職についた今、次の世代に同じ恨みは持たせたくないと思っている。

大学はそれだけに夢のようだった。大学のあり方には失望したけれども、今まで見たことも聞いたこともない本を次々とすすめてくれる先輩はまぶしかった。入学して初めて迎えた夏休みは、郷里の図書館に通いつめて暮らしたものだ。その頃読んだ『第二の性』『娘時代』の『女ざかり』は目が覚める思いだった。「人は女に生まれるのではない。女になるのだ」「両親は娘の個性を伸ばすよりも、結婚に適応させようとする」「結婚は女にとって危険だ。異だ」と語るボーヴォワールは「私の人生に確かな成功が一つあった。サルトルとの関係である」と言い切り、サルトルが「私たちの会話は世界の終わりまで続けていこうとも時間が短すぎる」と言っているのに驚嘆した。あんなふうには、私も生きてみたいと、強く思ったものだった。そのボーヴォワールもすでに七十歳だとい

今月のなかみ

＜編集担当・あごら旭川＞

表紙のことば 性別分業意識の変革を 山内恵子……………1	いま、私たちにとってボーヴォワールとは……………2
「ボーヴォワール自身を語る」を見て……………	寺島一男 那須友子 京田初美 小坂良一
小坂啓子 片山道弘 吉良トミ子 田代慶子	奥天好枝 久保厚子
各地に燃えあがった反戦の集会の報告から……………6	後半期行動計画重点目標発表さる 他……………7
お知らせ 女のつどい・女の講座……………8	

性別分業意識の変革を

山内 恵子

う。強い内的命令のもとにひたすらたくましく生きてきて、今、ある種の怠惰の喜びを味わっていると同想するボーヴォワールに画面の中で会えたことはすてきだった。それだけに、もっと早い時期に、内的命令によって生きてきた彼女の映画を見たかったと欲を言いたくなかった。

彼女のようにと願いながらも社会通念を乗り越える勇気を持たなかった私は、せめて二人の心が一致していればいい人生を生きたいと思つて結婚したが、背後に家とか性別分業をはらむ結婚制度はそんなに甘いものではなかった。二人の愛、友人とかかわり、思想だけを語り合えるボーヴォワールたちの関係は羨ましいが、結婚しなかったことによつて解決できなかったことなのだろうか。サルトルは家事を具体的にどう処理していたのか、そこが聞きたかった。が、自分を彼女の次の世代であると自負するならば、性別分業意識の変革こそ、私たちの世代的課題であると決意することにした。

この後で『九時から五時』までを見たが、映画館は二十代、三十代の女たちが満員であり、次の世代が目覚めた時代とよく似てきた。ナチの抬頭してきた時代とよく似てきた。なの頃だけど、有権者の過半数を占める女たちの自覚で世界は大きく変わると信じた。

—松本悟君の死と恐るべき農薬行政—

ニッソール農薬裁判

編集／ニッソール農薬裁判を支援する会

300円

(1) はじめに (2) 提訴にふみきらせた農薬とはなにか (3) ニッソール農薬とはなにか (4) 支援の輪はひろがる (5) 和歌山地裁の判決 (6) 一審判決の問題点 (7) みかん栽培と農薬 (8) おわりに (9) 資料・防除暦・裁判経過年表

一九六七年 和歌山県のみかん農家松本武高さんの長男悟君(当時高校生)はみかん農家ニッソールにより中毒死した。両親は「二人目の悟を出したくない」と国と日本曹達株式会社を相手に提訴。8年3月ふりに出た判決は「原告請求は棄却」の全面敗訴。企業と国の言い分のみを採り上げた矛盾だらけの判決だった。早速大阪高裁に提訴。今日、大阪高裁で係争中である。

日本ではじめて農民のおこしたこの裁判について、事件の発端から現在に至るまでのいろいろな角度からの経過と問題点、みかん農薬のこと等について、わかり易く解説したこのパンフをぜひ読んでこの裁判の意味を理解して下さい。そして支援の輪を拡げるために使して下さい。

発行 ニッソール農薬裁判を支援する会
京都府左京区北白川追分町京大農学部
石田紀郎気付 電話 五五二二二
連絡先 婦人民生クラブ
東京都渋谷区神宮前3-31-18
電話 〇三三四〇二二三三四
大阪府北区中崎西2-4-40
電話 〇六一三七一一二四二九

あごら旭川

いま、私たちにとってボーヴォワールとは……

五月十五日、旭川では、映画「ボーヴォワール自身を語る」があんふあんて主催で上映されました。以下は、その感想文です。

女性の内に未来を見る

寺島 一 男

口の悪い運動仲間に出ると、その運動がうまくいっているかどうかは、そこに関わっている女性をみればよく分かるなどという。たくさん女性の女性に参加しているかどうか、生き生きと積極的に関わっているかどうか、などが運動の内幕を物語るということであろう。まさしく一面において同感である。そして、何よりもこのように表現されること自体に、すでに社会における女性問題の一端が現われているように思われるのである。

ボーヴォワールの魅力は、その理知的な生き方を「生き方」として提起するのではなく、自らの生きざまとして提起しているところにあるように思われる。人間は男性も女性も、時代の進展の中で自ら「型」をつくり、その「型」を自ら壊す作業を続けている。そのことが人間を進歩させるからであらう。とは言え、その先駆的作業をするものは大変である。ましてや、差別というものを長く歴史的に内包させてきた女性問題においては、事態は一層深刻となる。もちろんボーヴォワールを、女性解放の理論的指導者のごとく考えるのは間違いであるが、自らの主体の問題として取り組んだ彼女の生きざまが、今日のこの問題に大きな影響を与えていることは否定できない。

映画の中で、今なおその生きざまをさげながら、サルトルを初めとして自分がつき合ってきた人々と向かいあい、語り、そして求めて止まないボーヴォワールの姿が、時代の変化と共に描かれていて、実にすばらしかった。そして何よりもすばらしいことは、このような映画が、さまざまな立場にある女性自身の手によって、地域の中で上映されていること、事実の中にあるように思われる。女性の生き生きとした姿の中に、民主主義や社会や、人間の幸福の行く末を求めることは、男の身勝手な欲張りであらうか。

絶望をバネとして

自分の好きなことを

那須 友子

終幕、話しているボーヴォワールの顔が次第にクロースアップしてゆく画面を見ながら、シモーヌ・ド・ボーヴォワールその人が確実にこの世に存在しているという実感がズシンと胸に落ちるのを感じた。

本を通して「今、現在フランスに存在している」と頭の中ではわかって、いたつもりではあったが、本(文字)と映像(視聴覚)との違いなのである。ボーヴォワールその人が、正にフランスのある場所で呼吸し、生き生きと暮らし、生への不安とあくなき人生への欲望(不眠の投機)の間を揺れ動きながら、ふてぶて

しい程の生命力を持って生きつづけてきたという事実を直に感じた。

ボーヴォワールと言えはサルトル、とすぐ頭に思い浮かべてしまふ私の考えに逆らうように、この映画のプロローグは十五歳年下の昔の愛人クロード・ランズマンとの対話から始まる。

私は二十歳の頃「現在の結婚制度は欺瞞に満ち満ちている。将来この制度は崩壊すべきものだ」と考えていたことがあつた。わざわざ好きこのんで自分からそうしたのではないのだが、今、現在その制度の中にどっぷりと嵌りこみ、身動きがとれずにいるのだが、ここにすべての現象を射通すような視線で見つめ続け、絶望的な絶望の中に在って虚無に走りもせず、却って「絶望を発条として自分の好きなことをしてきた」と答えるボーヴォワールに圧倒される思いである。

彼女は「娘時代」の中で「私はラニョーの私の絶対的な絶望が私の唯一の支えだ」という言葉が大好きだった。絶望がはつきりと私の内部に定着して以来、私は自分が存在しつづけている以上、この地上で出来るだけうまくやってゆくほかなかった。つまり自分の好きなことをすることだった」と言っている。これほど事物を透徹するような目で見、神と人生の意味への不信を持ちながら、ニヒリズムに陥ることもなく、それをバネとしてしたいことをしてきたと言える精神の強靱さに驚かされる。

私も二十歳頃から(誰でもそうなのかもしれないが)心の中で自分の好きなこ

とをしたいと切に思い続けてきた。私の場合、したいこととは、一人の人間としての自立を意味していたのだが、実際に行動を起こすと思ひやたらぬ様々な障害にぶつか、一人の人間としての自立さえおぼつかない程に完膚なきまでに叩きのめされた経験がある。勿論、その原因は私自身の人間の脆さ、未熟さ、洞察のなさ等々の故であるのだが、一人生きてゆくことの厳しさや孤独、不安を真正面から受け止めきれず、中途半端なやり方で現在の結婚制度と妥協してしまった私自身の在り方が、ボーヴォワールの他者との対話を通して鮮やかに浮かび出してくる。

私の夫はまず良い人で、現在はどうしても離婚せねば自分を生かすことができない、という状況ではないのだが、この映画を見、この映画の会話の完訳を読み返す時、もし私に多少なりとも事物現象に対しての正しい認識と洞察力、一人に耐えられる強い意志力があったなら、もう少しは「こうありたい」と願っていた生き方に近づき得たかもしれぬと思うのである。

10年早く出会いたかった

京田 初 美

彼女についてよく認識しないまま、図書館に出かけて関係する書物のあり場所を問うと、『第二の性』の三、四冊と、ご夫婦の著作による解説書二冊ぐらいの

ものでした。彼女は作家だと聞いていたけれど思想家なのかしらんと考えながら解説書を開くと、難解というか哲学的というか、二度や三度繰返し読んでも頭に入ってゆかず、自分の読解力の低さをあらためて認めた次第です。それにしても、だれもが理解可能な程度の解説書を作るということはできないものでしょうか。

『第二の性』については、映画でサルトルが絶賛していたように素晴らしいものでした。ただ、三十歳代の現在ではなく、二十歳の多感な時に読んでいたならばと思うと残念です。社会人になつたけれど、環境になかなか順応できない、つまり社会の要求する女という形式が納得できずに、でもそれに対抗するなんの論理も持つことなく、ただム、ム、ムと我慢の心情で、時におさえきれずに爆発していただけの私の青春は、無念という言葉でしか表現することができません。

今となつては、私の子どもたちが女として、男としてではなく、常に人間として成長してくれるよう見守りたいと考えています。

ボーヴォワールのサルトルとの関係の説明を読むにつけ、自分と彼との関係を考えてしまっています。私が彼について考えていることがそのまま書かれているような表現なのです。でも、レベルが相当違っていますし、私たちは一夫一婦主義者ですし、子どもを共有しています。運命共同体としての論理は、主義者であらうとなかろうと、内容に変わりはないのでしょうか。

一夫一婦主義者ですとは書いたけれどこの関係は多分に無理があります。国家権力にうまく利用されているということも感じています。だからといってそれを否定できるかというところ、できないんですネ。なまぬるい湯にどっぷりつかります

てしまったせいか、国家権力に利用されていると言いつながら、ちゃっかり自分の方から便乗してしまっているのか、時間をかけて考える必要を感じています。ただ、今の結婚がなんらかの形で終わった後は、もう決して、あらためてまた……ということとは考えないだろうと思っています。

二人の、よりリアルな 生きざまを垣間見て

小坂 良 一

映画を見終わって、市民文化会館の建物から出た時、僕が感じていたものは、率直に言うに暗澹たる人生のイメージだった。それはより具体的に言えば、スクリーンのボーヴォワールとサルトルの映像(ボーヴォワールがいかに活発にしゃべりたてようと)に二重映しになって現われてくる具合の、人間の老いと死のイメージなのだ。僕はまた、サルトルがほとんど失明状態にあり、頭脳は明晰を保ったままなのに、ある意味で自分の人生は終わったと語った言葉に、一撃を受けた。そのサルトルが昨年亡くなり、ボーヴォワールの現在を想像すると、人生の苛酷さが僕を圧倒した。ボーヴォワールはあるインタビューで、自分の今後の最大の不幸は、サルトルが私より先に死ぬか、私がサルトルに先だって死ぬかと語ったのだ。

大物の彼らにして人生がこのように苛酷なものならば、われわれ小物はどうしてそれに耐えられるかというわけだ。こう書いてくると、どうも僕は彼らの人生の終わり近くの暗い面ばかり見てし

まったようだが、確かに人生にハッピーエンドはないにしても、そのデッドエンド(行き止まり)に至る彼らの果敢な生き方にも打たれたといわねばならない。彼らはその生から老い、死に至る一本道を直視し、それに意味を与えようとして奮闘したのだ。僕はこのスクリーンの彼らの映像に接して、読書によるものとは別の、よりリアルなその生きざまを垣間見ることができたことを幸運に思っている。

われわれは日常生活の多忙、ちっぽけな快楽、気晴らし、倦怠などの厚いヴェールの向こうに、われわれの行きつく先、老い、死を、そこに至る一本道の存在を見失う。多忙なのに、自分が何をやっていないのかわからない。しかしそれを直視しない限り、その道に、人生に意味を付与するような行為は一つできないだろう。

ともかく、われわれは日常生活に埋没してしまふだけは、なんとしても避けなければならぬといつくづく思う。映画でのその言葉を使うボーヴォワールの激しい口調に驚いたのだが、「とにかく倦怠だけは我慢できない」のだ。

信頼こそ夫婦の基本

吉良 トミ子

女性として、妻の立場として、この映画を鑑賞し、女性の生き方、夫婦のあり方について改めて考えさせられました。人それぞれ、代わってやることのできない重荷や生い立ち、そして現在おかれている環境や性格なども考え合わせてみると、思ひ通りの人生を生き抜くことは大変むずかしいことだと思えます。

私も、母であり、夫の助け手としての役割はすばらしい立場で、またすばらしい仕事だと思ふのですが、その価値あるいは努力を、毎日寝起きを共にする人にさえ、認めてもらうことは大変忍耐の必要なことだと思えます。その点、ボーヴォワール女史は恵まれた環境にあったのだと思われますが、伴侶であるサルトル氏が彼女の生き方を「あなたのこととは人間として間違いないだろう。考えて行なっているのだから」と一歩退いた所から見ている姿は、彼女に全幅の信頼をおいているのだからと思います。この相互の信頼が夫婦の基本でしょうし、そのゆえに今日のボーヴォワール女史が在るのだらうと思います。

「僕のイヤなことは止める。僕が家に居る時には必ず居るように。居ない時にも居るように」と朗々と述べる多くの男性は、このサルトル氏の姿をすこし考えてみる必要があるのではないのでしょうか。高齢と言われる部類に入っても、命のある限りいつも世界に目を向けて、日々いろいろな角度から学び、その方法はどうかであれ、自分を与えるべく所を捜し求める姿は、いつも心にとめておきたい。そしてそれぞれ環境の中で精いっぱい生きて、躊躇することなく生きざまを語るほどの一貫した強い意志と人々に対する愛を培い、自分に責任を持った人生を送りたいものだと思います。

ボーヴォワールを観て

片山 道弘

まず、面食らった。最初の「なぜあなたはこの映画を作ったのか」という問いに対して、「虚栄心。もっと自分を知っ

わせと言うべきかもしれない。結婚することも子どもを持つことも女にとっては異なるとボーヴォワールは言った。私が結婚したのは、好奇心がやみくもに旺盛だったからだと思っている。「母親になりたい」との願望も人一倍強かった。ボーヴォワールはまた、こうも言っている。「女がどうしても子どもを持ちたいと思ったら、結婚せずに産んだほうがまだいいでしょう」と。だが、当時の私はそれだけの勇気も持ち合わせてはいなかった。異にはまる条件はそろっていたわけである。

現在、私は定職もないのに多忙である。やりたくてやっている「あごら」とか、「あんふぁんて」の活動のほか、地域での雑用を求められるまま、五つも六つも引き受けてしまったためである。信頼されて推薦されるのは光栄だし、それはそれで楽しいことや実になることもあるのだけれど、そして、つとめてあらゆる人々、事物から吸収しようとする時間はいるのだけれど、時折、なんだか時間を無駄に費やしているような錯覚に襲われて、ふっと虚しくなることがある。

ボーヴォワールの場合、文学を志す強い使命感が、「一刻も無駄にはできぬ」とばかりに「自分の好きなことをする」方向へ進ませたとさえ言う。私が流された命感が稀薄なせいなのだと思う。三十代も半ばを過ぎてのボーヴォワールとの再会が、私の後半生に少なからぬ影響を及ぼしてくれそうな気がしている。

母子共に収穫のあることを！

託児係 中村幸枝

開場と共に、不安そうな瞳の子どもたちが母親に手を引かれて次々とやって来ました。重大決心の末、ここにやって来た母子もいることでしょう。どの顔にも緊張したのが見受けられます。

四六時中、母親だけの時間しか持たない乳幼児が二十名余り。しばし慌ただしさの中でオムツやらおしっここの時間などの要件を聞き、さて託児の開始です。同時に、二、三人の子どもたちが母親の姿を捜して泣き出しました。不安を、精いっぱい泣き声に託しています。私たちは、少しでも早く子どもたちの不安を取り除かせるよう、腕の中や膝の上でじつと体温を伝えるのみでした。やがて、泣き疲れたのか、それともオムツや他の子どもたちの遊びに興味がひかれたのか少しづつ落ち着いていき、遊びだしました。時折、思い出して泣く子を除いて、自分の兄弟やオモチャ、黒板への絵かき、自動車遊びなどで時間を忘れていききました。お昼寝の時間まで、数人の子どもたちが蒲団の上で寝息をたてています。今回は予想を上回る数のお子さん方を預かり、係としてはもつと託児係の人員をふやすべきだったと反省しています。また習慣の違いか、日本人の特性なのか、乳幼児の大半が母親とだけの生活がすべての日常で、今回のように見知らぬ大人たち、子どもたちといった違う環境に放りこまれた際の不安や驚きが、並大抵ではない様子でした。肉親以外にも愛護してくれる者のいること、新しい遊びを生み出してくれる素晴らしい仲間がたくさいるというのを確実に肌で感じとるためにも、是非、機会ある度にいろいろな事柄に母子で積極的に参加してほしいと願っています。

今日の日は母子共に収穫のあった一日であればよかったなあと思っています。

「ボーヴォワール自身を語る」を上映して

あんふぁんて 久保厚子

この映画を上映することは、あんふぁんてにとって一つの冒険であり、賭けであった。というのも、一つにはフィルム代が一日十万円と高く、前回の映画会より百枚以上も多くのチケットを捌かなければ赤字になること。二つには、ボーヴォワールの旭川における知名度がどれくらいのものなのか、また、この映画をどれくらいの人が必要としているのか察しにくいことなどから、上映するメリットがあまりないのではないかと思われたから。それでもなお、この映画を上映することになったのは、流行歌の文句ではないけれど、「女の意地」というようなものが少なからずあったように思う。

私たちは初め、あんふぁんて独自で上映することに無理を感じ、シネマ連絡会に共同上映を申し入れたのだが、あっさり断られてしまった。この映画に、どうしても上映したいという魅力があまりないこと、シネマ連自体に、総経費十五万円近くの仕事をやるだけの力がないことなどの理由である。共同上映を断念した私たちは、もう一度話し合い、自分たちの勉強のために、というところで赤字覚悟で上映にふみ切った。その時私たちは心の中には、きつとこの映画を観たがっている人が何人かは必ずいるはずだという思いと、男たちが投げ出した仕事でも（ちなみにシネマ連は男性ばかり十二名のグループ）、なんとか成功させて、女の底力を示したいという思いがあった。とはいっても、の、五百円のチケットを

三百枚以上売らなければならぬということに思ったより大変で、私たちは、預かってくれそうな所へは、どこへでもチケットを持って行った。全く面識のない人にも、電話を通して預けてもらったりしたローラー作戦が功をなしたのか、前売だけで二百五十近く捌け、金銭的な面に関しては、安心して開催する目算があったものの、やはり私たちは不安だった。なぜなら、私たちは誰一人として、試写を観てはおらず、フィルムに因して、ええ、全くなかったと勝負だったから。ところが意外にも（というのも、私たちは勉強にはなるだろうけれども、観て面白い映画だとは思ってなかったのだ）、うまい構成と、実際に語るのを見ることの面白さで、時間を感じさせない映画であったため、上映後の観客の反応も良く、また、入場者も、当日券六十五枚分を入れて、昼夜合わせて二百四十近くにもなり、私たちは本当にうれしく思った。準備に四か月間。初めてのチケット買い取り制など、大変な映画会ではあったが、映画を通して多くの人と知り合え、協力を得ることができたこと、また、子持ち女の集団でも、やれば出来るんだという自信が持てたことなど、実り多い映画会であったと思う。

可能性教室「編集入門」の新しいクラスが始まります

7月15日（水）から毎週水曜日、読書会で新しいコースが始まります。
●時間 昼13時15分 夜18時20分
●費用 全10回で3千円（非会員は9千円、ほかに実習費千円程度）
●講師 斎藤千代さん（先着10名限り）
●申し込み ハガキに昼夜の別と連絡先電話を書いて、〒160新宿区新宿1-9-6あごら可能性教室へ

◆報告◆ 各地に燃え上がった反戦の炎

◆4・29 浦和市民会 一五〇人

「女たちは戦争への道を許さない埼玉集会」は、四月二十九日浦和市民会館で、約一五〇人が参加。まず12・7東京集会の模様を伝える映画のあと、体の不調をおして出席された松井やよりさんより、十五年戦争中、日本の軍隊がいかにひどい侵略をしたか、「靖国神社国家護持」は日本帝国軍隊を積極的に肯定する意味があるので、ぜひとも反対しなければならぬ、と訴えられた。続いて大宮婦民の宮内さんと浦和市民連合の森下さんから、それぞれの体験を通して「反戦」にいたったいきさつが述べられた。

討論終了後のデモコースは、この集会資金作りのためのバザー（売上げ好調で集会黒字に大きく貢献）の売場ともなった歩行者天国を通り、新しい浦和の「ひろば」さくら草通りを通り、コルソビルを正面に位置する中之島まで。思い思いに表現されたプラカード、旗、カラフルな風船を手にはリズミカルな歌を歌いながらの「女、子ども」の反戦デモは、この埼玉の地に既成のデモパターンを打ち破る新しいデモ形態を提起した。デモ終了後、大空に放たれた風船で作られたアドバルーンは、「女、子ども」の反戦の思いを伝えてくれたであろうか……。

◆5・2 山手教会 千人

昨年の12・7集会をうけ、各地で行なわれた「戦争への道を許さない女たちの集会」報告、これから予定している人々

の紹介が、次々と満場の拍手の中で行なわれ、場内には熱い女たちの連帯の輪が広がっていた。

和服姿で壇上に登った沢地久枝さんは「いま私の訴えたいこと」として、改めて憲法をよりどころとして、自らの生活を守り、改憲に反対していくことを訴えた。支配者側が、「勝手に喋らせておく」余裕さえなくし、表現の自由を狭めてきているという体験上の発言は、聞き手に急テンポに押しすすめられている情報管理の現実をまざまざと見せてくれた。

さらに彼女は、戦争へ国民をかりたてようとやっきになる国家とは何なのかを鋭く問いかけ、あふれる思いを口早に語り続けた。

沢地さんと同様に、激しく共感を抱かせ、笑いを凍らせるほどのリアリティを演出したのが、ヨネヤママコ一座だ。過保護な母親は、いつしか子供にあやつられ、気づいた時には子は戦争へ、自分はファシズムに押しつぶされていくといったもので、背筋が冷えていった。

「あごら」読者のために特記すべきはこの集会で、「女と戦争」が飛ぶように二百冊売れ、空前のヒットを放ったことだ。これには、平素になく激した口調で24号を高だかとかざし、「平和とは、共に生きること。それを阻むのが戦争であり、どんなことをしても戦争への道を許さない」と熱く反戦の思いを訴えた斎藤千代さんのアピールが功を奏した。

全国各地に広がりゆく、女たちの力を確かなものに感じあう、一日だった。

◆5・10 名古屋市勤労婦人センター

一五〇人

右傾化に危機感を抱いた「婦民新聞を読む会」などの女性が、各地で開かれていた女性の反戦集会を名古屋でもと、呼びかけ、名古屋市初の「戦争を許さない女たちの集い」が開かれた。準備半年、呼びかけ人にはあごら東海V有志など六十余人の名を連ねた。

講師の山下智恵子さんは最近亡くなられたご自分の母親が生きてきた時代を考へることから、明治以降の思想統制の過程、それにどう教育が対応していったかを語り、それを次の世代にどう語り継ぐべきかを考えていると話し、「一番言いにくい所で、一番言いにくい人に一番いいにくいことを言おう」と呼びかけられた。

その後全体討論。自分自身の戦争体験、旧満州などでの生活から、自分も戦争加害者だというのが反戦原点だという事や、社会科教科書攻撃など教育の右傾化をどうこばむか等の話とともに、反戦を言うこと、自らの存在をおびやかされる時に抵抗のために武器を取ることやどう考えるのかや、富んだ日本社会の中で反戦平和を言うことの意味等の問題提起もなされた。

集会の後「女たちは戦争を許さない」等のゼッケンをつけ、プラカード・風ゼンを持って、約二キロをデモ行進した。

◆5・16 東村山市立公民館 三〇〇人
第一部と第二部、昼夜に及ぶ集会は、

あごら武蔵野メンバーであり、二年前東村山市議となった山本かなえさんはじめ、たくさんさんの地域の女たちの手で催された。

昼の部は、淡谷まり子さんの「暮らした中にみる戦争への道——法律面にみる人権への侵蝕」、松井やよりさんの「アジアで日本は何をできたか、しようとしているか——被害者であり加害者である私たち」の二つの講演とアトラクションに続き、山本さん、淡谷さん、松井さんの座談会（司会はいあごら事務局Vの保科朋子さん）。身近な右傾化の動きについて、そのなかで私たちは何をしなければならぬか。などについて熱気あふれる座談会となった。

夜の部は、大西巨人さんの講演「情況と人間——存在における人間の尊厳」に続き、山本さん、大西さん、野辺明子さん（先天性四肢不自由児父母の会会長）、光岡良二さん（歌人）、大西赤人さん（作家）によるパネルディスカッション（司会はいあごら武蔵野Vの丹羽雅代さん）。それぞれの方々のご発言はさすがに重く「弱者」と呼ばれる人々の生き方、人間の生命の問題について、鋭い問題提起があり、時間が少ないのが残念な、すばらしいディスカッションで、幕となった。

推進会議案よりさらに後退

総理府 後期重点目標を発表

2月に婦人問題企画推進会議から提出された意見書を受けて、婦人問題企画推進本部では5月15日、重点目標を発表しました。①婦人の地位向上のための法令

等の検討 ②政策決定への婦人の参加の促進 ③教育・訓練の充実 ④雇用における男女の機会の均等と待遇の平等の促進 ⑤育児等に関する環境の整備 ⑥母性の尊重と健康づくりの促進 ⑦老後における生活の安定 ⑧農山漁村婦人の福祉と地位の向上 ⑨国際協力の推進の9項目の内容は、行動計画同様、どれも抽象的。たとえば、女性差別撤廃条約批准に向けての国内法整備と関連する①にしても、国籍法の検討と雇用平等法のガイドラインの策定にふれただけ。②の審議会・委員会等の女性委員の割合も10%を努力目標にしているにすぎず、人口の50%が女子であるという基本的認識さえ不十分です。女性差別撤廃条約の批准を最重点に、従来の推進会議に比べれば、それなりに熱情あふれた推進会議意見書よりも、さらに大きく後退した感はある。ダブル選挙以来、きわだって保守化した政情と思えば、前途に暗雲を感じます。各婦人団体は、一斉に内容を検討し、抗議する予定です。

ボルノは女への暴力だ！ スライド上映などで盛況 女のでんらん会

なぜ女は果てしなく「美人」になる努力をさせられるのか？
なぜ女の賃金は男の半分なのか？
数々の「なぜ」に答える「女のでんらん会」第3回が5月24日、すべーすJORAで開かれました。
名だたるラジカルおぼん小西綾さんの講演、この間見のがしたボルノスライド

ショー、そして幻のエンターティナー、駒尺喜美さんの歌と踊り……とプログラムに惹かれてのぞいてみると、狭いすべーすは女の熱気でムンムン。どれも期待にたがわぬ内容で、花ふぶき、ラベンダーギャングズなど、この催しにかけた熱意がしのばれました。それにしても、この貴重なすべーすJORAが閉じられることになったのは残念。新しいよい場所での再発足を祈ります。

高校家庭科を男女共修に 日弁連が意見書

家庭科共修は、「家庭科の男女共修を考える会」はじめ各婦人団体が毎年文部省に要望を出し続けているが、「別修は法的にみて、性差別撤廃条約はもちろん憲法や教育基本法に違反」と、日弁連の「女性の権利に関する特別委員会」が二年がかりでまとめた意見書を発表した。共修の法的理論を確立したものとして注目を集めている。

女性差別撤廃条約の早期批准を 促進する大阪府民会議発足

五月九日、中小企業文化会館で府下の主な婦人団体代表や活動家が集まり、大羽綾子さんの記念講演を皮切りに、決意を固めました。連絡先は大阪市浪速区久保吉1-6-12部落解放研究教育センター内、同会議。

大阪の女たちが 女のミニ・パンフ製作

国際婦人年北区の会が『女性と法律』

(B7判、1000円)、『バートで働くとき損をしないための12章』(A6判、200円)を製作。形は小さくても内容は抜群。ご希望の方は大阪市北区西天満4-12-22第三青山ビル川西弁護士会「国際婦人年北区の会」へ。

13人が追悼の辞 市川さんを偲ぶ会

48団体による「偲ぶ会」が、5月25日憲政会館で開かれた。津田の学生時代からの縁という田中寿美子さん、戦前の運動を共に闘った柳田ふきさんはじめ、思い出の人々が語るエピソードに、場内の五百人は改めて惜別の思いに浸った。

感動しました！『87歳の青春』

年とともに美しくなったといわれる市川さんだが、20代30代から求道者に似た青銅のような顔。自分の顔を若い頃から持っていた。新たな発見と感動の連続。見終わった今、あふれる思いで言葉がない。ズバリ一言、日本女性必見の映画。天の半分を占める女性が一票を獲得して久しいが、市川さんの出発点は今も多くの女たちの出発点である。豊富な資料を基に「市川さんの語り部となる」ことに徹した村山監督の狙いは、スッキリした映像になって成功した。

ついに言った！この一言……

「××書店だがネ、『女と戦争』こんな売れやしないよ。返品する」
「ええ、喜んで。売れて売れて、在庫がなくなつて困つてたところですから」

日ごろ温厚なNさんの応答に、周りで聞いてた一同「あースーッとした！一度言ってみたかったことばよネ」
一時は書店に買い戻しに行く騒ぎ。ついに千部増刷しました。反戦運動にと、11部21部まとめたのご注文も多く、発送にたんでまいました。あなたも反戦運動にぜひご利用ください。11部以上一割引き、21部以上二割引き。ご希望の宛先にもお送りします。

25号テーマは「女と情報」 //知らされていない女たち//

社会に偏在している情報、特に女には伝えられない情報が多すぎる。それは戦争の一大因でもある。原発、核持ち込み等、庶民の目や耳がふさがれていた事実が次々に発覚する中で、女の立場から情報の問題を考えてみます。編集会議は東京で開きますが、地方の方々も、企画や制作にぜひご参加ください。事務局内「25号編集会議」までハガキ連絡を。

『あごら』24号合評会

東京地区は6月12日(金)
6時半から読書室で。お誘い合わせ、お出かけください。

△編集後記▽

今回の自主上映に対し、あごら旭川は「チケット販売のお手伝いと感想文の発行」という形で応援させていただきました。これを機に、年に一、二度合同の学習会をもちたいね、と話し合っています。

〈女のつどい・女の講座〉

日	時	テ	マ	会	場
6月6日(土)		戦争と改憲への道を拒否する東京大集会		品川公会堂	
7日(日)13:00~		安保をつぶせ/アジアの民衆とともに侵略と戦争を許さない6月行動 参加費300円(連絡先 402-3244)		日比谷野外音楽堂	
10日(水)		「仙台・あごらを読む会・斎藤千代さんを囲んで」		連絡先 0222-29-2712	三船照子
12日(金)18:30~		あごら24号合評会		あごら読書室 03-354-9014	
13日(土)13:30~		戦争への道を許さない女たちの神奈川集会 講演 北沢洋子、パントマイム・ヨネヤママコ		横浜開港記念会館 045-544-4021	
13:30~17:00		あごら浦和・例会 テキストもろさわようこ著「女の戦後史」(未来社刊)		浦和コミュニティセンター	
14:00~17:00		教科書問題講演会・教科書攻撃とその背景 講師 本多公栄氏 <家永教科書検定訴訟を支援する愛知県連絡会>		昭和区役所ホール	
18:00~21:00		死刑をなくす女の会・全員集合		労音会館2F会議室	
14日(日)14:00~16:00		行動の会・離婚分科会		ジョキ 03-357-9565	
18:30~		刑法改悪に反対する婦人会議		ク	
15日(月)19:00~		「マゼンダ」ロックコンサート (連絡先 0488-64-7675 藤田)		ライブハウス屋根裏 03-464-6031	
17日(水)18:30~		家族計画とビル——アジアでの日本の役割 飯島愛子・綿貫礼子 <アジアの女たちの会'81春期女大> 参加費500円		渋谷勤労福祉会館 03-508-7070	
18日(木)		結婚の意味を問う継続討論 (354-2543 藤村) 参加費不要		渋谷勤労福祉会館 03-462-2511	
20日(土)13:00~16:00		遺伝子からみた生命、人間、社会 1981年度総会と第22回講演会 講師 中村桂子<日本婦人科学者の会> (連絡先 03-330-1015)		日本YWCA 03-264-0661	
21日(日)13:30~17:00		あごら京都・定例会 あごら24号・合評会その1		シャンバラ 075-821-3579	
22日(月)18:00~		あごら旭川・例会 あごらミニ51号合評会		大雪婦人会館	
23日(火)10:00~		鉄連批判 一人でも多くの人の傍聴を! <鉄連の7人と闘う会>		東京地裁民事19部	
18:00~		諸外国のマスコミで働く女性の実態調査について<婦人問題懇話会・マスコミ日常性分科会>		梶谷典子氏宅 03-463-2487	
18:00~21:00		男女差別賃金をなくすつどい—本田淳亮先生を囲んで—国際婦人年北区の会		大阪中央公会堂 078-783-5809正路	
24日(水)18:30~21:00		民族差別と買春観光・富山妙子さんを囲んで<買春観光を考える会>		楽友会館 075-751-1100	
18:30~		あごら京王・例会 24号合評会及び「自分にとっての反戦」		新宿東口「滝沢」	
25日(木)18:30~		あごら北東京・例会「リブとして男とどうかかわるか」		婦人協同法律事務所 03-985-3308	
26日(金)18:00~		占領期初期の婦人組織について 報告 隅谷しげ子氏<婦人問題懇話会・女性史分科会>		文化服装学院出版局5F応接室	
27日(土)18:00~		専門職パートタイマーの研究 <婦人問題懇話会・職場問題分科会>		東京都教育会館	
		世界の軍事同盟を考える講演(27日)討論会(28日)の集い		反徴兵・反安保連絡センター(355-3084)	
28日(日)11:00~16:00		あごら柏・例会 座談会		古賀宅 0471-45-6724	
13:00~16:30		新聞の家庭・婦人欄を読んでの話し合い「私はこう思う」参加費不要(連絡先354-2543 藤村)		渋谷勤労福祉会館	
7月4日(土)13:30~		男女共修、世界では 報告 木村温美氏・和田典子氏 参加費300円<家庭科の男女共修をすすめる会>		婦人会館03-370-0238	
5日(日)		「ボルノグラフィーは女への暴力である・スライド上映会」参加費300円 託児あり(連絡先 052-361-1480 奥村)		愛知県労働会館	
15日(水)18:30~21:00		日本の化粧品とアジアの女性たち <アジアの女たちの会'81春期女大> 参加費500円(連絡先508-7070) (昼間のみ)		渋谷勤労福祉会館	
19日(金)13:00~16:00		心とからだの解放をめざして <女の会・例会> (0473-38-4861 林)		新宿文化センター	
20日(土)19:00~		あごら武蔵野・例会「あごらミニ編集」		かわら版事務所 0423-94-2902	

各地のあごら連絡先

- あごら旭川
 - 旭川市神楽岡一条五丁目3 田代慶子
 - 011666 655 6237 077811
- あごら札幌
 - 札幌市中央区南25西12ニュー藻岩503 高橋芳恵
 - 01115633 6917 0664
- あごら浦和
 - 埼玉県浦和市南浦和2-19-8 国井マツ江
 - 048888 877 3680 336
- あごら柏
 - 柏市豊四季台3-1-68 古賀節子
 - 04771445 66724 277
- あごら北東京
 - 豊島区池袋1-45-11モンペ92 婦人協同法律事務所 内村由美子
 - 098533308 1170
- あごら武蔵野
 - 小平市小川町1-7-63の86 丹羽雅代
 - 04223443 6749 187
- あごら京王
 - 調布市仙川町3-12-32 福井浅子
 - 0333088 7871 182
- あごら神奈川
 - 川崎市多摩区東生田2-12 森山方 沼田千恵子
 - 0449333 9079 214
- あごら東海
 - 愛知県愛知郡東郷町和合ヶ丘1-12-9 伊藤汎美
 - 0561399 2386 4701
- あごら京都
 - 京都市左京区北白川久保田町36-4 塚崎美和子
 - 0757911 4623 606
- あごら大阪
 - 吹田市出口町30-20 北垣由民子
 - 063387 0916 564
- あごら九州
 - 福岡市西区笹丘2-4-6 小島豊子
 - 092521 7624 810